

トヨタ自動車のバン事業をトヨタ車体へ移管することに合意 ー バンにおける、良品廉価でタイムリーなクルマづくりを強化 ー

トヨタ自動車株式会社（以下、トヨタ自動車）およびトヨタ車体株式会社（以下、トヨタ車体）は、これまでトヨタ自動車からトヨタ車体へ「委託」していたバン事業*1における企画・開発・生産業務を、本年11月より「移管」し、トヨタ車体が主体となって同業務を進めていくことに合意しました。今後両社は、意思決定の迅速化と開発工数・費用の低減を加速し、バン事業の競争力を更に強化してまいります。

トヨタ車体は、1945年にトヨタ自動車工業株式会社（現：トヨタ自動車）の刈谷工場が独立し、トラックボデー専門メーカーとして発足しました。それ以降、ハイエースやランドクルーザー、コースターなどの開発・生産を手掛け、完成車両メーカーとして活動領域を広げるとともに、トヨタのバン・SUV・商用車事業の中核を支えてきました。2000年代以降は、国内市場のけん引役として急成長してきたミニバンの開発・生産を担い、2017年には年間約70万台を生産するまでに拡大し、着実な成長を続けてまいりました。

2016年4月には、トヨタ自動車において、組織を製品群ごとに小括り化し、企画・開発・生産を一気通貫で担当する「カンパニー制」が施行され、その内の1つとして、バンやフレーム系SUV*2を担当するCV Companyが発足しました。トヨタ車体は、CV Companyの一員として、開発・生産業務を引き続き担うとともに、トヨタ自動車と一体となって「仕事の進め方変革」や「もっといいクルマづくり」に取り組んできました。

さらに2018年1月には、バン事業において、新たに企画業務もトヨタ車体で行うこととし、バン系車種の企画・開発・生産を一気通貫で行う枠組みとなりました。

今後もトヨタ車体は、CV Companyの一員として同じ目標を共有し、この度移管されたバン事業において、これまで蓄積してきたノウハウを活かした更なる原価低減を進めてまいります。加えて、ニーズをきめ細かく反映した、世界中のお客様に喜んでいただけるクルマを一台でも多く、スピード感を持ってお届けできるよう、専門組織として主体的にクルマづくりに取り組んでまいります。

CV Companyとしても、両社の得意分野でそれぞれの強みを発揮し、「もっといいクルマづくり」を強化してまいります。

*1：バン、ミニバン、小型バスを指す。

*2：ラダーフレーム構造のSUV、ピックアップトラック等を指す。